

## ●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

## 1. “日米同盟”か日本国憲法か

民主党政権は「米軍基地の沖縄からの撤去」という選挙公約を「抑止力維持のために」といとも簡単に反故にした。“日米同盟”の反人民性を沖縄の現実、日米安保の歴史そして朝鮮半島情勢の分析等から明らかにし、護憲の運動とはどうあるべきかを受講生とともに考えていきたい。

- ①**11月20日(土) 沖縄からみた日本国憲法**  
—— 知事選を目前に改めて事の本質を問う  
講師＝高良鉄美（琉球大学法科大学院教授）
- ②**12月8日(水) 戦後民主革命の挫折と日米安保の成立**  
—— 鬼畜米英から“日米同盟”へ  
講師＝広野省三（編集者・HOWS事務局）
- ③**1月12日(水) 社会主義世界体制解体のもたらしたものの**  
—— 90年代以降の“日米同盟”強化の流れ  
講師＝新田 進（国際労働運動研究・小川町シネクラブ）
- ④**2月23日(水) “日米同盟”の変遷と朝鮮半島情勢**  
—— 朝鮮・中国は敵なのか？  
講師＝李 東 琦（統一評論新社副社長）

## 2. 社会主義の危機は人類の危機

資本主義は行き詰まりの様相を深めつつ、労働者への搾取強化で危機乗り切りをはかっている。これに対する労働者階級の反撃は、ギリシャを先頭にヨーロッパ規模で闘われているが、世界の社会主義をめざす闘いは、ソ連「崩壊」の痛手からいまだ立ち直れず、展望を見出せずにいる。この講座では、20世紀の社会主義の歴史を振り返り、状況打開の糸口を探りたい。

- ①**11月6日(土) ロシア十月社会主義革命93周年集会**（東京・文京区民センター）  
**資本主義に“未来”はない**  
—— 社会主義の明日を切り拓くために  
基調報告＝山下勇男（社会主義理論研究）  
ギリシャ共産党、PAME（全ギリシャ戦闘的労働者戦線）の最新映像を上映
- ②**2月2日(水) 『21世紀社会主義』建設の闘い**  
—— 中南米革命の最前線ベネズエラを訪ねて  
講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）
- ③**3月30日(水) ペレストロイカを振り返る**  
—— 21世紀の人類の課題を考えるために  
講師＝木村英亮（横浜国立大学名誉教授）  
<参考文献>  
木村英亮著『ソ連の歴史——ロシア革命からポスト・ソ連まで』  
『20世紀の世界史』（山川出版社刊）

## 3. 労働者の大衆運動こそが逆転勝利への決め手

「日本の労働者・人民にとってどうしたら未来の見える新しい展望が拓けるのか。日本独占資本が米帝国主義の領導下で進める『地獄への道』を断ち切り、逆転勝利への道を創り出せるのか。」（『武井昭夫状況論集1980－1987原則こそが、新しい。』『まえおき』より）。

反貧困・派遣村等々の陰で地方・国家を問わず公務労働現場がドラスティックに構造変化している。労働基本権を奪われたまま、首切りが闊歩している。正規・非正規労働者が一体となって職場・生産点からの要求を掲げて、闘いを前進させよう。いまこそスト権奪還闘争。そして労働三権をフル行使する官民一体のゼネストを志向する労働運動、これが原則だ。階級闘争の現状認識実践の課題を互いに問い、論議し共にその展望を探る。

- ①**11月10日(水) 主人公は労働者だ**  
—— 武井昭夫状況論集『原則こそが、新しい。』をどう読むか  
発言＝松沢 弘（反リストラ産経労組委員長）  
藤原 晃（神奈川高教組）
- ②**1月15日(土) メディア労働者の抱える問題**  
—— ジャーナリズムの危機に  
講 師＝東海林 智（新聞労連委員長）  
聞き手・進行役＝山口正紀（ジャーナリスト）
- ③**1月22日(土) 社保庁・仕分け等公務員の首切りとスト権奪還の闘い**  
発言＝染 裕之（東京清掃労働組合書記長）  
木村良二（全農林労働組合分会役員）  
吉良 寛（横浜市従業員労働組合）
- ④**3月9日(水) 郵政の労働現場から闘いの可能性を考える**  
—— 映画『説得——かわち1974年春』(55分・企画全通労組)を観て  
発言＝池田 実（郵政4・28事件勝利原告）  
米丸かさね（ゆうメイト）

## 4. 過酷さを増す女性労働

—— 失われた権利をとり戻そう

実効性の薄い小手先の労働基準法「改正」や新自由主義労働政策による労働者の生活の破壊に対する見せかけの弥縫策に過ぎない育児・介護休業法の「改正」が行なわれても、女性労働者の働く条件は過酷さを増すばかり。その現実と闘いの課題を探る。

- ①**1月26日(水) 進行する女性労働者の無権利化**  
—— 女子保護規定の剥奪がもたらしたものの  
講師＝鴨 桃代（全国コミュニティユニオン連合会会長）
- ②**2月9日(水) 保育制度の解体と保育労働者**  
—— 公立保育園で働く労働者の発言を受けて  
発言＝古賀 圭（保育労働者）ほか
- ③**3月5日(土) 国際婦人デー 101周年集会**  
—— 差別と貧困をなくすために世界の女性と連帯して闘おう
- ④**3月26日(土) アジアの女性と連帯する道**  
—— ソウル「戦争と女性の人権博物館」建設運動に携わって  
講師＝中原道子（早稲田大学名誉教授）

## 5. 青年学生を圧迫する反動政治に反撃を！

「高校無償化」における朝鮮学校排除策動など、日本政府とマスコミによる反動化はとどまるところを知らない。また、多くの若者は過酷な非正規労働のもとで、苦しい生活を余儀なくされている。こうした改憲情勢のなかで、いかに未来を切り拓くのか、青年学生たちとともに探る。

- ①**1月29日(土) 日朝の青年学生は手をつなごう**  
—— 高校無償化からの朝鮮学校排除問題を手がかりに考える  
朝鮮大学生を招いての交流  
発言＝廣野茅乃（学生）／須藤虎太郎（大学院生）ほか
- ②**2月16日(水) 青年と語る非正規労働者問題**  
—— 憲法25条・27条・28条の意味  
講師＝加藤晋介（弁護士）  
※ 青年、学生たちが質問と討議に参加
- ③**3月12日(土) 改憲情勢は本当に遠のいたのか？**  
—— 格差と貧困におおわれる現実をどう突破するか  
冒頭発言＝萩尾健太（弁護士）  
発 言＝園 良太（フリーター全般労組）／小島鐵也（氷河期世代ユニオン）〈予定〉／佐々木 一（青年労働者）

## 6. 日本の短編小説を読む

- 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学） 午後7時～  
今期は「戦争を読む」をテーマに、次の諸作品を取り上げて、現前する戦争と死の前に、文学がどのようにそれと向き合おうとしたかを考える。
- ①**11月24日(水) 長谷川四郎作『鶴』**（講談社文芸文庫収録表題作）  
望遠鏡で敵陣を監視する歩哨の視野に一羽の鶴の姿が映る。今しも背後から鶴に向かって銃を構えようとする者がある。鶴の運命は……？
- ②**12月15日(水) 梅崎春生作『桜島』**  
鋼鉄の銃剣が私の身体に擬せられた瞬間、私は逃げるだろうか。這い伏して助命を乞うだろうか。あるいは一身の矜持を賭けて戦うだろうか。人は「その瞬間」とどのように向き合うのか。
- ③**1月19日(水) 坂口安吾作『真珠』**  
真珠湾攻撃に際し、覚悟の上で散って行った軍人たちと、銃後の人々々とを対照させ、戦争と死に対する人間の身の処し方を鮮やかに描き出す。
- ④**3月23日(水) 武田泰淳作『汝の母を！』**  
中国戦線で母親と息子に性行為を強制し、その後二人を殺した日本軍。本編はその非道の記憶を人間としてどのように負うのかを追究している。

## 7. HOWS文化講座

- ①**10月23日(土) 時代を呼吸するうた Ⅲ**  
—— 又エバ・カンシオン概説～亡命者たちの文化  
八木啓代（歌手・作家・プロデューサー）
- ②**10月30日(土) 時代を呼吸するうた Ⅳ**  
—— キューバの新しい歌 又エバ・トローパー  
八木啓代（歌手・作家・プロデューサー）
- ③**12月11日(土) 日本の短編小説を読む（特別講座）**  
—— 『泥の河』（小栗康平監督）と『泥の河』（宮本 輝原作）  
講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）  
物語は戦後十年をへた昭和三十年ごろの話。大阪の河のほとり、橋のたもとに一軒の食堂があった。主人夫婦には小学生の一人息子があった。ある日、河のほとりに一艘の舟が繋がる。舟には母親と子どもたちが暮らしている。上流から引越してきたのだ。  
映画と原作は彼らのつかの間の交流を描き、人々の心に残る戦争の傷痕を、じっくりと見つめる。
- ④**12月18日(土) 抵抗の美術家たち——近世在野の心意気 Ⅲ**  
—— “画狂人” 葛飾北斎に迫る  
講師＝日夏露彦（美術評論家）  
諧謔・諷刺・情調に富む人間観察、含意ある風景シリーズに骨太なヒューマニズムを貫く。
- ⑤**2月13日(日) HOWS美術館**  
—— 作品から見る労働者階級の美術史  
講師＝金山明子（画家）／金山政紀（画家）  
※ 案内する美術館・作品等は、追ってお知らせいたします。

## 8. この人に聞く

- ①**11月17日(水) 最新の朝鮮訪問(2010年10月)報告**  
—— 「朝鮮強占100年」のいま、日朝関係を考える  
講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
- ②**11月27日(土) 究極の憲法違反**  
—— 比例定数削減に反対しよう  
講師＝坂本 修（弁護士）
- ③**2月19日(土) 映画『外泊』(2009年・73分、監督：キム・ミレ)を観て考える**  
—— 李明博政権の非正規職政策  
講師＝李 泳 采（恵泉女学園大学教員）
- ④**2月26日(土) 東アジアの近現代史を探る**  
—— 日本軍はマレーシアで何をしたのか  
講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
- ⑤**3月19日(土) 詩とは偏向する勁さのことだ。—— 政治も然り。**  
—— 現代日本の文学と政治を斬る  
ゲスト＝長谷川龍生（詩人）  
聞き手＝安里叫蜃（プロレタリア詩人）

### ◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

### ①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。最近では、竹内好の「アジア主義」批判、湯地朝雄「プロレタリア文学運動 その理想と現実」、戸坂潤「世界の一環としての日本」(1937年)、尾崎秀実の「東亜協同体論」、「花田清輝vs吉本隆明論争」、「花田清輝「近代の超克」をめぐるって」などを取り上げました。  
2010年度後期のプログラムの詳細については、事務局までお問い合わせください。

### ②群読ゼミ

世話役＝小松厚子

台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。テーマは状況に応じてアップツウデイトなもの参加者の討議によって決められます。テーマが決まったら、全員がそれぞれに感銘した文言、思いを込めた文章を持ち寄ります。それらを素材に台本づくり、演出、音楽、朗読などの分担を行ないます。こうしてできあがった作品は反戦平和や憲法擁護、民主主義と人権のための集会等で上演されます。ゼミの開催日時は協議のうえ、決定します。

●これまでの制作・作品には、次のものがあります。

- いま、私たちの労働現場から—— グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
- 私たちの戦争案内—— 急速に進行する戦争体制づくりに抗して
- 戦争を止めよう！—— あなたちも・日常から・世界の女性と共に
- 戦争を止めよう！Ⅱ
- いま、私たちの労働現場からⅡ
- 私たちはどういう社会をつくりたいのか—— 憲法改憲は誰のため？
- 憲法改憲反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
- 共闘こそ力！—— 壊憲を許すな
- 先に起つのは君だ—— 戦争・失業・貧困をなくそう
- 憲法と原発—— 目を覚ませ！ 未来の世代のために

●HOWS本科生・聴講生は、経験の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。

<p>HOWS講座カレンダー 2010年度後期（10月～3月）</p>
<p>10月23日(土) 又エバ・カンシオン概説～亡命者たちの文化 八木啓代（歌手・作家・プロデューサー）</p> <p>10月30日(土) キューバの新しい歌・又エバ・トローパー 八木啓代（歌手・作家・プロデューサー）</p> <p>11月6日(土) <span style="background-color: black; color: white;">ロシア十月社会主義革命93周年集会</span> 資本主義に“未来”はない—— 社会主義の明日を切り拓くために 基調報告＝山下勇男（社会主義理論研究） ギリシャ共産党、PAME(全ギリシャ戦闘的労働者戦線)の最新映像を上映</p> <p>11月10日(水) 主人公は労働者だ—— 武井昭夫状況論集『原則こそが、新しい。』をどう読むか 発言＝松沢 弘（反リストラ産経労組委員長）／藤原 晃（神奈川高教組）</p> <p>11月17日(水) 最新の朝鮮訪問(2010年10月)報告——「朝鮮強占100年」のいま、日朝関係を考える 講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）</p> <p>11月20日(土) 沖縄からみた日本国憲法—— 知事選を目前に改めて事の本質を問う 講師＝高良鉄美（琉球大学法科大学院教授）</p> <p>11月24日(水) 日本の短編小説を読む 長谷川四郎作『鶴』 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）</p> <p>11月27日(土) 究極の憲法違反—— 比例定数削減に反対しよう 講師＝坂本 修（弁護士）</p> <p>12月8日(水) 戦後民主革命の挫折と日米安保の成立—— 鬼畜米英から“日米同盟”へ 講師＝広野省三（編集者・HOWS事務局）</p> <p>12月11日(土) 日本の短編小説を読む(特別講座)——『泥の河』(小栗康平監督)と『泥の河』(宮本 輝原作) 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）</p> <p>12月15日(水) 日本の短編小説を読む 梅崎春生作『桜島』 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）</p> <p>12月18日(土) 近世在野の心意気 Ⅲ—— “画狂人” 葛飾北斎に迫る 講師＝日夏露彦（美術評論家）</p> <p>1月12日(水) 社会主義世界体制解体後の“日米同盟”強化の流れ 講師＝新田 進（国際労働運動研究・小川町シネクラブ）</p> <p>1月15日(土) メディア労働者の抱える問題—— ジャーナリズムの危機に 講師＝東海林 智（新聞労連委員長）／聞き手・進行役＝山口正紀（ジャーナリスト）</p> <p>1月19日(水) 日本の短編小説を読む 坂口安吾作『真珠』 講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）</p> <p>1月22日(土) 社保庁・仕分け等公務員の首切りとスト権奪還の闘い 発言＝染 裕之(東京清掃労働組合書記長)／木村良二(全農林労働組合分会役員)／吉良 寛(自治体労働者)</p> <p>1月26日(水) 進行する女性労働者の無権利化—— 女子保護規定の剥奪がもたらしたものの 講師＝鴨 桃代（全国コミュニティユニオン連合会会長）</p> <p>1月29日(土) 日朝の青年学生は手をつなごう—— 高校無償化からの朝鮮学校排除問題を手がかりに考える 朝鮮大学生を招いての交流 発言＝廣野茅乃（学生）／須藤虎太郎（大学院生）</p> <p>2月2日(水) 『21世紀社会主義』建設の闘い—— 中南米革命の最前線ベネズエラを訪ねて 講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）</p> <p>2月9日(水) 保育制度の解体と保育労働者—— 公立保育園で働く労働者の発言を受けて 発言＝古賀 圭、ほか</p> <p>2月13日(日) HOWS美術館—— 作品から見る労働者階級の美術史 講師＝金山明子（画家）／金山政紀（画家） ※案内する美術館・作品等は、追ってお知らせいたします。</p> <p>2月16日(水) 青年と語る非正規労働者問題—— 憲法25条・27条・28条の意味 講師＝加藤晋介（弁護士）／青年、学生たちが参加</p> <p>2月19日(土) 映画『外泊』を観て考える—— 李明博政権の非正規職政策 講師＝李 泳 采（恵泉女学園大学教員）</p> <p>2月23日(水) “日米同盟”の変遷と朝鮮半島情勢—— 朝鮮・中国は敵なのか？ 講師＝李 東 琦（統一評論）副社長）</p> <p>2月26日(土) 東アジアの近現代史を探る——日本軍はマレーシアで何をしたのか 講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）</p> <p>3月5日(土) 国際婦人デー・101周年集会—— 差別と貧困をなくすために世界の女性と連帯して闘おう</p> <p>3月9日(水) 郵政における労働現場からの闘いの可能性を考える—— 映画『説得—かわち1974年春』を観て 発言＝池田 実（郵政4・28事件勝利原告）／米丸かさね（ゆうメイト）</p> <p>3月12日(土) 改憲情勢は本当に遠のいたのか？—— 格差と貧困におおわれる現実をどう突破するか 冒頭発言＝萩尾健太（弁護士） 発言＝園 良太（フリーター全般労組）／小島鐵也（氷河期世代ユニオン）〈予定〉／佐々木一（青年労働者）</p> <p>3月19日(土) 詩とは偏向する勁さのことだ。—— 現代日本の文学と政治を斬る ゲスト＝長谷川龍生（詩人）／聞き手＝安里叫蜃（プロレタリア詩人）</p> <p>3月26日(土) アジアの女性と連帯する道—— ソウル「戦争と女性の人権博物館」建設運動に携わって 講師＝中原道子（早稲田大学名誉教授）</p> <p>3月30日(水) ペレストロイカを振り返る—— 21世紀の人類の課題を考えるために 講師＝木村英亮（横浜国立大学名誉教授）</p>